

特色ある読書推進活動の紹介

【国見町図書館オープニングセレモニー】

訪問日：令和2年10月4日（日）9：00～12：00

場所：国見町図書館・国見町観月台文化センターホール

内容：オープニングセレモニー、記念講演、活動披露

令和2年10月1日に国見町の観月台文化センター図書室が「国見町図書館」となったことを記念して、10月4日（日）にオープニングセレモニーが行われました。

式典では、国見町長をはじめとする関係の皆様がテープカットをして開館を祝いました。国見町長や来賓の皆様のご挨拶の後、4名の「国見町ジュニア応援団」の皆さんから、手作りの紙芝居が寄贈されました。この紙芝居は、放射線について小学校低学年の子どもたちにも分かりやすい内容にしようと作成されたものです。

国見町では、学校・家庭・地域が一体となって「家読（うちどく）」による読書推進活動に取り組んでいます。また、子ども司書の育成、移動図書館の活用など、子どもが読書に親しむ機会と読書環境整備の充実に尽力されています。

「読書の町にしたい」という町民の皆さんの思いが「図書館化」へとつながったことで、これからも読書の中核の一つとした生涯学習の推進が図られることでしょう。

魅力ある図書館を通して、国見町の子どもたちが心豊かに成長することを願います。



記念講演「私と図書館」

内池和子さん（国見民話の会代表）

内池さんは、昭和47年に県内初の家庭文庫である「内池文庫」を開設されました。現在まで、「国見民話の会」や「福島子どもの本をひろめる会」での活動を通して、長年にわたり子どもたちに読書のすばらしさを伝え続けてこられました。

また、「町中の子どもたちに、生きる力を与える本を紹介したい。読んでもらいたい。」という強い思いから、東北地方では先がけて、公民館活動の中で母と子による読書活動を行いました。

～内池さんのお話より～

- ・ 子どもが「読める」ということは、1つずつの字が繋がっていくこと。その意味を全身で理解することである。感覚がその文字の中から立ち上がる。それが「読むこと」である。子どもは、その情景を自分の中で絵にする。自分の感覚を総動員して読むのである。
- ・ 子どもが「読めない」とけなしたりしないでほしい。子どもは、ゆっくりと字を覚え、自分の感覚を磨いていくのだ。たくさん読むことで、誰もが持っているイメージの力を訓練するのである。

国見町図書館の入口には、「読む力は 生きる力を養う」という内池さんのメッセージが掲示されています。図書館を訪れる皆さんに、「本を読むことの意味」を内池さんが教えてくださっています。



活動披露

○国見町子ども司書

国見小と県北中の皆さんによる「絵本の読み聞かせ」「ビブリオイントロダクション」が行われました。

「友達や家族に読書のすばらしさを伝えたい」と想いを大切に活動されているそうです。

発表した皆さん一人一人が、せりふに心をこめ、情景がイメージできるよう、本の世界を豊かに表現していました。



○子ども移動図書館指導員

大型紙芝居「りゅうになりそこねたハブ」を披露してくださいました。味のある声と、お話の内容に合わせたメリハリある読み方に、会場の皆さんから大きな拍手が送られました。

指導員の皆さんは、国見小学校の昼休みの時間に、1～3年生の子どもたちに向けて、本の貸し出しを行っています。



○国見民話の会

「国見民話の会」の皆さんは、国見小学校や国見っ子わんぱく広場で、伝承語りを教えています。

この日は、3名の方が国見町に昔から伝わる話「おかねは木の葉っぱ」「ゆうれいの道案内」「小坂のじぞうさん」の語りを行ってくださいました。

これらの話は、内池さんをはじめとする民話の会の皆さんが、地域のお年寄りから聞いた話を語りにしたものだそうです。



○よみきかせ・みみずく

「よみきかせ・みみずく」の皆さんは、国見町内の保育所や幼稚園、「ももたんひろば」などで、子どもたちに向けた読み聞かせ活動を行っています。

アフリカのお話「アナンシと6びきのむすこ」を、ピアノの演奏とともに朗読してくださいました。

お話の世界観を見事に表現したピアノ演奏と、ストーリー展開の変化を声色などで上手に表した安定感のある読み聞かせにより、会場全体がお話の世界に引き込まれていました。



○人形劇サークル「エプロン」

「3びきのやぎのがらがらどん」をユーモラスに演じてくださいました。効果音も登場人物のキャラクターに合わせたもので、ユーモアたっぷり。見ていても聞いていてもわくわくする人情劇です。

「エプロン」の皆さんは、結成して25周年。国見町だけでなく、県北地区で大人気の人形劇サークルです。

会場には、活動発表をした団体の取り組みについて紹介したパネルが展示してありました。

それぞれの活動の充実ぶりがうかがえました。



「国見町移動図書館」の歩み



子ども司書のみなさんが作成した本のPOP